

大学コンソーシアム京都 産学連携プログラム
プロジェクト実践コース プロジェクト報告書

気候ネットワーク

—脱炭素社会と再生可能エネルギー100%実現に向けた調査・情報発信—

野崎麻衣 家下茉莉

目次

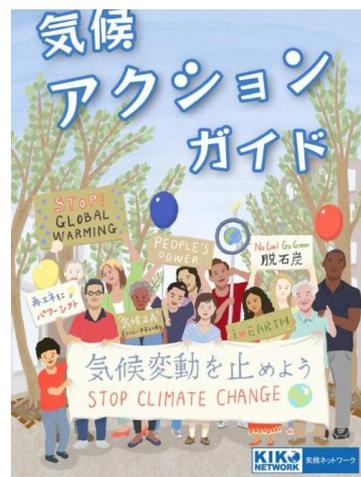
- 1 : はじめに
- 2 : 受け入れ先の紹介
- 3 : 活動の経緯
- 4 : 活動の内容
- 5 : 活動の成果
- 6 : 反省点
- 7 : 活動を通して感じたこと
- 8 : 参考文献

1：はじめに

私たちは、気候ネットワークさんのもと今回活動を行った。このプロジェクト報告書では活動を行った経緯とその成果を報告する。

2：受け入れ先の紹介

気候ネットワークでは人類の生存を脅かす気候変動を防ぎ、持続可能な地球社会の実現を目指し NGO・NPO・市民の立場から活動を行っている。この5つのミッションを掲げ、持続可能な地域社会の実現に対する強い思いから活動を行っている。1つ目に、世界の温室効果ガスを実質ゼロにする国際的なしくみをつくる。2つ目に、日本での持続可能な脱炭素社会・経済に向けたしくみをつくる。3つ目に、化石燃料や原子力に依存しないエネルギーシステムに変える。4つ目に、市民のネットワークと協働による脱炭素地域づくりを進める。5つ目に、情報公開と市民参加による気候政策決定プロセスをつくる。権力や財力でなく、実現に対する強い思いから活動を行っている。次に、右側の写真の気候アクションガイドは気候ネットワークが無償で提供しているものだ。これは、持続可能な脱炭素社会を築くためにできることはあるかについて、効果的なアクションとアクションの際に大切にしてほしい姿勢について詳しく書かれている。



<https://kikonet.org/content/21986>

3：活動の経緯

私たちは、脱炭素社会と再生可能エネルギー100%実現に向けた調査・情報発信をテーマに活動を行った。このテーマに対して私たちが考えた問題点は、若者世代に対する環境問題の認知度の低さだ。私たち自身も環境問題に対する知識が少なく、友人に環境問題について知っていることを聞いてみたが、あまり深い解答が得られなかったため、若者世代の認知度の低さに注目した。この問題に対して、どのように解決に導くか考えたとき、Instagram を活用した情報発信がよいのではないかと考えた。Instagram のメリットは、ストーリーを挙げるとどのくらいの人が見てくれたかがわかり、また、クイズやアンケート機能などの見ている人を楽しませることができるものもある点だ。このことから私たちは情報発信のツールとして Instagram を選択した。

4：活動内容

・企画書の作成

はじめに私たちは活動を進めるにあたって企画書を作成した。企画書の段階では、投稿頻度を多く設定していたが、実際始めると一つの投稿の写真や情報を考えることに時間がかかってしまい、頻度は落ちたことが事実だ。投稿には環境となにかを掛け合わせたものの発信、ストーリーでは身近なものとの関連を発信しようと考えていた。

・情報収集

まず、ライオンズクラブ、気候ネットワーク共催のイベントに参加した。このイベント

は東京大学未来ビジョン研究センター副センター長の江守正多さんや元ラグビー日本代表の五郎丸歩選手をスピーカーに脱炭素の実現に向けて私たちは何ができるか気候変動の最新動向を共有し、進むべき方向やアクション、連携などについて考えていくものだ。このイベントで普段の生活をしている中では知ることが出来ない、スポーツ選手の目線ならではの環境に関する問題、取り組みなどを知ることが出来た。私たち自身がすぐに取り組めることについてももちろん学ぶべきだが、パリオリンピックなどの現地の話は実際に見た人の話を聞くのがネットなどで文字で見るとより何よりも理解することができ、世界の環境問題についての意識の現状を知ることができたと感じた。

次に気候ガイドアクションを読んで、様々なレベルの取り組み方があるということを知り自分たちにもできることを探した。実際に地産地消のお店に足を運んだ。ここのお店では、京都でとれた野菜をふんだんに使っていた。私自身もこの情報を仕入れるまで知らなかったのも、よいきっかけになった。

また、私は水族館にも行ってみた。ここに行ってみた理由は、ごみ問題に関する知識を学んだ際に海の生き物にも与える影響は大きく、取り上げていると思ったからだ。実際SDGsとして取り上げていたけど、ここを通過していく人たちは素通りばかりで問題意識の低さを感じた。これらのことから水族館で感じたことを発信しようと考えた。

そして、普段生活していて気に留めないようなごみ箱の設置や新幹線やバスの張り紙などに注目して生活し発信できる情報を集めた。

・Instagram への投稿

Instagram で取り上げたテーマは、環境となにかを掛け合わせたもので、環境×食、再生可能エネルギー、住宅、交通、ごみの5つの観点から投稿した。ごみや再生可能エネルギーは環境に関係がわかりやすいが、食や交通と聞くとどのように関連しているのかが思い浮かびにくい。しかし、考えてみると日常のすべてのことが環境に結びついていて日常と環境はきってもきれない関係であることを学んだ。8月26日にアカウントを作成しストーリーと投稿にて発信を始めた。投稿だけでなく、クイズやアンケートの機能を利用しフォロワーの人にも楽しんでいただけるような工夫をした。

5：活動の成果

活動の成果として、Instagram のフォロワーは 100 人を達成した。右の写真は私たちの Instagram の完成版だ。私たち自身の友人にも協力してもらい、多くの人に見ていただくことができ、ストーリーや投稿に反応をえることができた。私たちが実際に行ったクイズやアンケートでは約 30 人程度の人に参加してくださった。ただ一方的に発信をすることに終わらず、見ている人を巻き込む工夫ができたと感じている。ただクイズを載せても流されるだけだと思ったので、そこに音楽をつけたり、答えるとほかの人がどの答えをおしていたのかなどがわかるような機能を利用し自分と同じような人がいるということを確認



してもらえたと思う。周りからの反応として、「投稿の感じがおもしろくも
っと知りたくなった」や「知らないことが多いので見る価値がある」など言っていただき、
環境問題について親しみやすい形で発信することができたのではないかと感じた。
Instagram の投稿にて工夫した点は、まず、複数枚の写真を使うことだ。自分たちがとっ
た写真を使うことでより説得力が増し、また、同じものを探してもらうきっかけになると
考えた。同じものを探すということは、それだけこの投稿でインパクトを残すことができ、
意識的になってくれていることだと思う。次に、写真とともにのせるキーワードと投稿文
をわけることだ。写真とともにのせるものに長い文を書くとみる気がなくなってしまうと
いう自らの経験から、重要なキーワードを厳選し、簡潔に書いた後に、詳しく投稿文で書
くことを意識した

6：反省点

今回の活動を通して2つ反省点がある。一つ目は活動を始める時期が遅くなってしまっ
たことだ。夏休みに入り、スケジュールリングとても厳しく、オンライン上での連絡が多く
なってしまった。その結果、活動の序盤に遅れが生じ、焦りを感じる場面があった。その
中でも、オンラインで連絡を取り続けることに最善を尽くし自分たちがやりたいことを明
確にして活動を始めることができた。改善点としては、可能な限り対面での話し合いリア
ルタイムで意見交換できる場を設けるべきであることだ。対面でのやり取りは、活動の方
向性や進行のスピードに大きく影響すると感じた。

二つ目は活動が Instagram のみでの情報発信に限られてしまったことだ。当初、環境に
関するイベントの開催を検討していたが、実現することはできなかった。現実的に課題が
多く、オンラインのみの発信に留まってしまったことは少し残念だ。Instagram は環境問
題について認知度を高める効果的な手段ではあったと思うが、実際に人と直接関わる機会
を増やすことで、より深い理解や関心を引き出すことができたと感じた。リアルな場での
活動機会を模索し開催の可能性を視野に入れ計画を立てることが改善できると思う。

7：活動を通して感じたこと

今回のこのプロジェクト企画実践コースの通しの目標として私は「有言実行」を掲げた。
有言実行と言っても、何かを言って、実行する！というより、プロジェクト前までの私に
圧倒的に足りていないと感じていたのが「実行力」でした。なんでもやる気というのはや
らなきゃ出てこないともよく言うけれど、とにかく今までの私はやる気が出ないからとい
って逃げていたことが多々あった。今回のこの Instagram での情報発信というプロジェク
トを通して、その実行する力は身についたと私は感じている。実際に届けるという面では
どうしても見えづらい面ではあったが、例えば日常で発信できるものを見つけた時にすぐ
に写真を撮ったり、意識的に何かをするという行動力は身についたと思った。ただ、どう
しても私だけの判断で勝手に進めるわけにはいかないな、など考えてしまって進行が少し
遅くなったり連絡に時間がかかってしまったり、そうしている間に怪我をしたり体調不良
になったり、など今まで見えてこなかった動けるときにすぐ動くということの大切さを学
ぶことも出来た。そのため今後は計画して動くことができても取り掛かりが遅くなってし

まっては良くないと感じ、無理をしすぎるのは良くないがすぐに動くということを意識していきたいと感じた。(野崎)

私が今回のプロジェクトで掲げた目標は「計画をたてる」ことだ。計画をたてるために重要なことは、ゴールを明確に設定することだと思う。私は Instagram でのフォロワーを増やし環境問題に対する認知度を上げるというゴールに向かって、逆算するという点でも苦戦した。チームでの活動では、個人の意見や考えをまとめ計画に反映させる難しさを感じた。この経験を通し学んだことは、伝えることの大切さだ。この期間を通して、野崎さんや受け入れ先さんとコミュニケーションをとる機会が多くあった。その中で、自分が考えていることや活動の現状を伝えることが、活動を円滑に進めるにあたって欠かせないことだと実感した。また、私たちは Instagram での発信を活動とし、オンライン上のため、普段の話し言葉とは違った言葉遣いに心がけていた。知識を持っていたり、知っている人が情報を伝えていかなければ認知度の向上は期待できない。私は伝えるということをつくさん行いその力を身に着けることができたと思っている。今後も様々な活動でも生かしていきたいと思う。(家下)

8：参考文献

気候ネットワーク <https://kikonet.org/> (2024/11/11)

気候アクションガイド <https://kikonet.org/content/21986> (2024/11/11)